

令和7年度 学校経営報告（全日制課程）

東京都立工芸高等学校長
深澤 栄次

1 今年度の取組目標と方策

（1）教育活動の目標と方策

【学校経営】

- ①新学習指導要領における理念や方向性等に基づいた教育課程の実現に向けて常に改善を図る。
- ②企画調整会議による校内運営組織の充実を図り、分掌等の機動性と課題解決力を高める。
- ③自立経営予算の効率的な執行と効果的な運用を定期的な確認作業を通じて管理し、予算の効果的な執行に努める。
- ④文書等管理の徹底を図り、校内における文書及び個人情報等に関する事故防止に努める。
- ⑤統合型校務支援システムを活用し、業務の効率化と生徒状況等の一元化を更に推進する。
- ⑥国の高等学校 DX 加速化推進事業の活用を検討し、一人1台端末の活用、校内の情報活用環境の整備を図る。
校内の諸課題について企画調整会議で検討・調整を行い決定した。また、自立経営予算について適切に管理し効果的な執行を行った。

【学習指導】

- ①生徒の個性や能力を伸長する授業を目指し、生徒による授業評価・校内研修や学力スタンダードを通して授業改善・学力の向上、心身の健全のため体力の向上、少人数指導を実施する。
- ②国語、数学、外国語、理科、地理歴史、公民の6教科では、大学進学志望者の増加に対し、他校の指導教諭の授業参観や指導教諭による授業観察等を通して授業改善を図るとともに、放課後や長期休業中の補習授業を実施する。
- ③専門学科では、ものづくりの新たな局面に向き合い、社会からの期待に応える教育活動を展開するとともに、学習指導要領に沿った技術・知識を習得させ、個性豊かな創造力・表現力・感性をもつ工業・工芸・デザインに関する「スペシャリスト」を育てる。
- ④東京都教育委員会より「ものづくり人材育成のための教育プログラム」の特定分野推進校の認定を受け、伝統工芸を主に高度で発展的・実践的な知識・技術を学び、伝統技術を継承しながら日本の「ものづくり」を支える人材を育成する。
- ⑤自ら学び考えたことを発表する機会や、調べもの学習で学校図書館を有効利用するなど、言語活動の充実や読書活動の推進を図る。
- ⑥「観点別評価」の導入の趣旨を徹底し、適切な評価の運用を行い生徒の能動的な学習を促進する。
- ⑦一人1台端末や Teams 等を積極的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」に関する理解を深め、ICTを活用したオンライン授業の実施や授業公開などを通してノウハウの共有を図り、デジタル教育の充実を図る。
- ⑧通級指導に関する組織体制を整備し、ケース会議等を定期的に行い、適正な実施に努める。
- ⑨学習障害について理解を深め、生徒の特性や状況に応じた合理的配慮を実施する。
授業におけるICT機器の有効な使用方法について研究を進め、授業改善及び校務の効率化を図った。また、工芸・美術・デザイン分野について専門的な指導体制を構築した。

【生活指導】

- ①自主・自律に基づく基本的な生活習慣、集団社会の一員としての自覚、時間を守る意識の育成など、社会生活意識の基本的ルール・マナー、規範意識を育てる。
- ②教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図り、ボランティア活動や人権教育プログラム等を活用して他者生命や人権を尊重する「豊かな心」を育てる。
- ③交通安全教育・薬物乱用防止教育などを通して命や心身の健康に対する態度を育てると共に、各種災害時における具体的な「自助」「公助」のあり方を学ぶ避難訓練や防災教育を充実させ、自校の「消防計画」を活用した地域連携の防災訓練を実施する。
- ④いじめや生命にかかわる事故防止等の早期対応のため、教職員は生徒との対話や行動に注視すると共に、年3回以上のいじめを把握するためのアンケートを実施し、その内容を教職員間で共有し、いじめ防止、生命にかかわる事故を防止する教育を推進する。

⑤生徒が友達の作り方などの人間関係や社会的なかわり方について適切なコミュニケーションが図れるよう、都立高校版コンディションレポート等を活用し、組織的な指導を充実させる

生徒向け相談シートや校内コンディションレポートを活用し、いじめや生命の事故を未然に防止する校内体制を構築した。また、人権教育を推進し他者や人名を尊重する教育を行った。

【進路指導】

①自校の「進路の手引き」やキャリアパスポートを活用し、就職・進学など進路に関する資料や進路相談の充実を図り、三年間を見通した長期的・計画的なキャリア教育を推進する。

②企業開拓を推進し、専門学科の教育内容に沿ったインターンシップや企業見学などにより勤労観・職業観を育むとともに、興味・関心に応じた進路選択ができるよう組織的に取り組む。

③外部学力テストの実施や大学入学共通テストの情報分析を行い、大学進学志望者に対する教育活動の充実を図るとともに、様々な推薦試験に対応できる総合的な学力の向上を図る。

④政治的教養を育み主権者教育の充実を図り自立的社会人としての素養を身に付けさせる取り組みを推進する。

インターンシップなどにより勤労観・職業観を育むとともに、興味・関心に応じた進路選択ができるよう組織的に取り組んだ。また、外部学力テストの実施や大学入学共通テストの情報分析を行い、大学進学志望者に対する教育活動の充実を図った。

【学校生活環境づくり】

①学校HPや Teams、Classi 東京都版などによる情報伝達の迅速性及び信頼性を高める。

②校内の相談機能を有効に活用するため、保健厚生部による広報機能の充実を図る。

③生徒に関する課題について、個人ではなく組織で対応し、より効果的な指導を展開する。

④あらゆる教育活動を通して、運動・スポーツへの興味・関心を高め、運動・スポーツに勤しむ態度を培う。

⑤メンタルヘルス講習会への参加や、ストレスチェックなどを活用し、教職員の健康状態への関心を高めるとともに、ライフ・ワーク・バランスの充実を図るため、職場環境改善を促進する。

⑥企画室の窓口における入校者管理や入校者及び教職員の名札の着用の徹底によって安心安全な校内環境の実現を図る。

学校HPや Teams、Classi 東京都版などによる情報伝達を行い、より確実な情報伝達を行った。また、校内照明のLED化工事を行い環境改善を図った。

【特別活動】

①様々なリスク及び生徒の状況を踏まえ、適切な特別活動の在り方を検討し実施計画を作成する。

②工芸高校の伝統を踏まえた学校行事を実現し、生徒の自発的・創造的・行動的に取り組む態度を育てる。

③地域連携を再検討し、生徒が行う地域と直接的な体験を通して、豊かな人間性や社会性を育み、よりよい人格の形成に取り組む

④社会の状況を踏まえ、生徒に社会の一員としての自覚と責任について考えさせる主体的な問題解決能力を育む指導を行う。

工芸高校の伝統を踏まえた体育祭や工芸祭などの学校行事を実現し、生徒が自発的・創造的に取り組む態度を育成した。

【広報活動地域連携】

①ホームページ委員会が組織として随時情報発信及び管理できるルールと体制を整備する。

②費用対効果の観点からSNSを活用した情報発信を積極的に活用し、リアルタイムに発信できる広報活動を実施する。

③動画配信や学校紹介コンテンツの活用など、新たな広報活動の在り方について具体的に検討、適宜実施する。

SNSを活用した情報発信を積極的に活用し、リアルタイムに情報発信を行った。また、動画配信や学校紹介コンテンツを充実させ学校の魅力向上を実現した。

(2) 重点目標と方策

【学校経営】

◇入試応募倍率の確保

本校の教育活動や生徒の活動状況、工芸・デザインに関する体験活動等を通じ、本校に興味・関心をもつ中学生やその保護者等へ適切な情報を伝える学校見学会や学校説明会などの広報活動を推進し、正しい理解に基づく選択として本校を受験する生徒の確保を図る。

(数値目標) 推薦入試応募倍率 3.5 倍以上、一般入試応募倍率 1.6 倍以上

(昨年度) 推薦入試応募倍率 3.6 倍、一般入試応募倍率 1.6 倍

(今年度) 推薦入試応募倍率 3.4 倍、一般入試応募倍率 1.7 倍 【評価 B】

◇会議等のペーパーレス化の更なる推進及び個人情報等の紛失・流失事故を含む服務事故防止

(数値目標) 個人情報の紛失や流失等の事故発生 0

(昨年度) 個人情報の紛失や流失等の事故発生 0

(今年度) 個人情報の紛失や流失等の事故発生 0 【評価 A】

【学習指導】

◇進学対策講座の充実と各種資格取得及び競技会への積極的な参加

生徒の自己実現を支援するための平日の補習・補講や長期休業中の進学対策講座、検定・資格取得講座を開講し学びの場を提供する。また、各種競技会・コンクールへの参加を促し、専門分野に関する興味・関心をもたせ、専門性の向上を図る。

(数値目標) 長期休業中の各種講座 20 講座以上、検定・資格取得延べ件数 450 件以上

(昨年度) 長期休業中の各種講座 55 講座以上、検定・資格取得延べ件数 515 件以上

(今年度) 長期休業中の各種講座 55 講座以上、検定・資格取得延べ件数 465 件以上 【評価 B】

◇社会からの期待に応える専門学科高校を目指す

工業高校改革に伴い、都立デザイン系中核的専門高校としてリーダーシップを発揮するとともに、他の工業高校と連携し、専門学科教育の充実や広報活動の活性化、魅力の発信を図る。

(数値目標) IT 及び PBL 外部人材の活用 10 件以上、設備拠点校実習実施 3 回以上、

(昨年度) IT 及び PBL 外部人材の活用 24 件以上、設備拠点校実習実施 4 回以上、

(今年度) IT 及び PBL 外部人材の活用 19 件以上、設備拠点校実習実施 4 回以上、 【評価 B】

◇ものづくり人材育成のための教育プログラムの実施

ものづくりへの興味・関心を高め、キャリア意識を培うため、熟練技術者による講演・実演やものづくり企業への現場訪問、基礎的な製作体験等を実施する

(数値目標) 講演会 3 時間、講師による授業 170 時間、教員対象研修 6 時間、ものづくり立志講座 6 時間実施

(昨年度) 講演会 4 時間、講師による授業 124 時間、教員対象研修 0 時間、ものづくり立志講座 5 時間実施

(今年度) 講演会 3 時間、講師による授業 412 時間、教員対象研修 0 時間、ものづくり立志講座 0 時間実施

【評価 A】

【生活指導】

◇家庭との連携と生活指導体制の充実

複雑化する生徒の社会的・家庭的・経済的状況を踏まえ、学習状況や出欠席状況について気になる様子が見られる場合は、学校での学習・生活状況等を家庭に密に連絡するとともに、適切な生徒理解と、家庭及び生徒支援に努め、外部の関係機関と連携し課題解決を図る。

(数値目標) 各学期での教育相談、三者面談等実施、都立高校版コンディションレポートを運用

(昨年度) 各学期での教育相談、三者面談等実施、工芸版コンディションレポートを運用

(今年度) 各学期での教育相談、三者面談等実施、工芸版コンディションレポートを運用 【評価 B】

◇防災教育と避難訓練の充実

地域との連携を強化した防災教育の在り方を検討し、従来の防災教育に加え、避難所設営及び運営訓練、初期消火訓練などの実施に向けた取り組みを行う。

(数値目標) 地域と連携した防災講話及び防災訓練、校内避難訓練等の実施 4 回以上

(昨年度) 地域と連携した防災講話及び防災訓練、校内避難訓練等の実施 4 回以上

(今年度) 地域と連携した防災講話及び防災訓練、校内避難訓練等の実施 4 回以上 【評価 B】

◇いじめや生命にかかわる事故防止等の組織体制の充実

いじめ対策委員会及び各種委員会を開催し、生徒理解と情報共有を充実させ、関係各所との連携を密にする。さらにスクールカウンセラーや外部教育相談機関(指導主事、心理職、スクールサポーター、シニアスクールカウンセラー等)との連携を図り、事故の未然防止及び早期発見を目指す。

(数値目標) いじめ対策委員会・校内研修年 3 回以上、いじめ実態調査アンケート年 3 回以上

(昨年度) いじめ対策委員会・校内研修年 3 回以上、いじめ実態調査アンケート年 3 回以上

(今年度) いじめ対策委員会・校内研修年3回以上、いじめ実態調査アンケート年3回以上 【評価 B】

【進路指導】

◇4年生大学の現役合格率の維持向上

生徒自身の自己の興味や関心、価値観や特性を見据え、また、生徒へ学習到達度の明示と確かな目標をもたせるなど、自身の望ましいキャリア選択を通して進路実現に向けた学習の機会を提供することで、現役合格率の維持向上を図る。

(数値目標) 4年生大学現役合格率90%以上

(昨年度) 4年生大学現役合格率90%以上

(今年度) 4年生大学現役合格率53%以上 【評価 C】

◇進路未決定者の解消

生徒個人にとって望ましいキャリア選択ができるようキャリアパスポートを活用し、教職員による丁寧な指導を展開するとともに、職業観・就労観もたせ、生徒の自己実現を図る。

(数値目標) 就職希望者内定率100%、進路未決定者数0人

(昨年度) 就職希望者内定率100%、進路未決定者数1人

(今年度) 就職希望者内定率100%、進路未決定者数41人 【評価 C】

【学校生活環境づくり】

◇生徒満足度の向上

生徒による授業評価や、生徒及び保護者、学校運営連絡協議会の学校評価アンケートの結果を基に、授業改善や分掌活動の見直し、各種行事の活性化等の生徒満足度の向上を目指す。

(数値目標) 授業満足度80%以上、進路指導満足度80%以上、学校生活満足度80%以上、生活指導の満足度70%以上、特別活動等の満足度80%以上、学校生活の満足度80%以上

(昨年度) 授業満足度75%以上、進路指導満足度54%以上、学校生活満足度69%以上、

生活指導の満足度53%以上、特別活動等の満足度70%以上、学校生活の満足度69%以上

(今年度) 授業満足度79%以上、進路指導満足度67%以上、学校生活満足度55%以上、

生活指導の満足度53%以上、特別活動等の満足度67%以上、学校生活の満足度55%以上

【評価 C】

◇学習環境の改善と指導体制の適正化

生徒及び保護者の意見を取り入れ、相談体制の充実を図り、学校生活の改善を図る。また、体罰や不適切な言動等の未然防止に努め、指導体制の適正化を図る。

(数値目標) 校内研修及び体罰実態調査アンケートを実施、教職員の服務事故の発生を防止

(昨年度) 校内研修及び体罰実態調査アンケートを実施、教職員の服務事故の発生を防止

(今年度) 校内研修及び体罰実態調査アンケートを実施、教職員の服務事故の発生を防止

【評価 B】

◇社会で主体的に貢献できる「生きる力」の育成

地域社会と連携し、共同事業、青少年対策事業、地域行事等への生徒の積極的な参加を図る。また、生徒会を中核として、自主・自律の心を育成できるよう様々な活動の場で支援する。

(数値目標) 文京区役所、警察署・消防署、社会教育施設、教育NPO、文化団体、福祉関係機関等と連携

(昨年度) 文京区役所、警察署・消防署、社会教育施設、教育NPO、文化団体、福祉関係機関等と連携

(今年度) 文京区役所、警察署・消防署、社会教育施設、教育NPO、文化団体、福祉関係機関等と連携

【評価 B】

【広報活動地域連携】

◇学校HPの管理体制の構築

学校HPの管理体制を見直し、適時適切な更新による情報発信を積極的に展開する組織を構築する。

(数値目標) 年間のHPとInstagram、X(旧Twitter)の更新回数200回以上

(昨年度) 年間のHPとInstagram、X(旧Twitter)の更新回数614回以上

(今年度) 年間のHPとInstagram、X(旧Twitter)の更新回数345回以上 【評価 A】